The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	新型コロナウイルス感染防止対策・知識に関する調査研究 ： 大阪大学における中国人留学生を例にして
Author(s)	高, 誉文; 大谷, 順子
Citation	大阪大学高等教育研究. 2021, 9, p. 13-30
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/79439
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

大阪大学高等教育研究　9（2020），13 − 30

【調査報告】

新型コロナウイルス感染防止対策・知識に関する調査研究

― 大阪大学における中国人留学生を例にして ―

高　誉文[※1]・大谷　順子[※1]

Study of Preventive measure and Knowledge about COVID-19 pandemic: A survey among Chinese students in Osaka University

GAO Yuwen[※1], OTANI Junko[※1]

新型コロナウイルス感染症は2019年12月以降，中国湖北省武漢市を中心に発生し短期間で全世界に広がり日本にも大きな影響を与えた．新型コロナウイルス感染症の流行に対し，日本には多くの留学生が滞在していることから，留学生に対する取り組みが行われてきた．刻一刻と状況が変わり，先が読めない現状の下，本研究では大阪大学における在日中国人留学生に対して新型コロナウイルス感染防止対策と知識に関する調査を行った．留学生が持つ新型コロナウイルス感染症に関する知識の把握と新型コロナウイルス感染防止対策の実施が彼らの健康と命の安全にどのように影響しているのか明らかにすることを目的として，2020年6月から9月にかけて，大阪大学に在籍する中国人留学生162名を対象にオンラインアンケートを実施した．調査回答者の内，女性は54.3％，男性は45.7％で，年齢は20代（83.3％）に集中していた．調査結果から，中国人留学生の属性によって新型コロナウイルス感染症に関する知識の把握と新型コロナウイルス感染防止対策の実施に差が見られた．このことから，優先的な実施措置が必要な対象を発見することができた．また，2020年9月までの日本政府の政策および大阪大学の新型コロナウイルス感染拡大予防に関連する対策と照らし合わせながら，留学生の新型コロナウイルス感染症への対応能力を向上させるための考察を試みた．

キーワード：新型コロナウイルス感染症，中国人留学生，新型コロナウイルス感染防止対策

Originating from Wuhan, China; the COVID-19 pandemic has been spreading throughout the world. Japan along with other countries has been experiencing economic and societal disruptions under the impact of outbreaks. Being one of the top destinations for international students including many from China, a lot of international students have opted to stay in Japan and continue their studies while the number of COVID-19 cases are still growing. Therefore, Japanese government and universities continue to regulate measures in response to the situation. In the rapidly changing current environment governed by high level of uncertainty, this study investigates the extent to which Chinese students residing in Japan have the knowledge of COVID-19 and their practice of countermeasures against the infection. To identify the factors which influence international students knowledge and implementation of countermeasures, the results of an online questionnaire survey of 162 Chinese international students in Japan from June 2020 to September 2020 were collected and analysed. Among the survey, 54.3% were women and 45.7% were men.83.3% of the respondents fall within the age bracket of 20-30 years old. From the results, it can be deduced that international students from China with different attributes have varying degree of knowledge with regards to COVID-19 in general and the safety measures to be taken against the virus. Moreover, the strategies implemented by Japanese government and Osaka University from September onwards have also being analysed and compared.Lastly, this research proposes several strategic routes that can be utilised to improve the international students' capability of responding to the pandemic.

Keywords：COVID-19, Chinese international student, Countermeasures against COVID-19

所　属：[※1]大阪大学大学院人間科学研究科
Affiliation：[※1]Graduate School of Human Sciences, Osaka University
連絡先：gaoyuwen52@yahoo.co.jp（高　誉文）

1. はじめに

近年，グローバル化が進むにつれて，在日外国人留学生数が増加している．独立行政法人日本学生支援機構が実施した『平成30年度外国人留学生在籍状況調査結果』によると，2018年の日本における留学生数は過去最高の約31.2万人となっている[(1)]．また，グローバル化の中，交通網の発達と国際的な人的交流の活発化により，感染症が瞬時に世界に伝播するようになった（横山，2018）．2019年12月以降，中国湖北省武漢市を中心に発生した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は，短期間で全世界に広がり，命と健康に対する直接的な脅威となった．2020年10月3日現在，新型コロナウイルス感染症は世界213の国・地域に広がり，感染者は3,452万人を超え，死者は102万人を上回っている．日本国内でも10月3日時点で確認された感染者数は86,163人に上り，1,613人が命を落としている[(2)]．そして，現在においてもその収束の目途はたっていない状態にある．全世界で新型コロナウイルス感染症との戦いが続いているが，感染症を完全に制御するためには感染予防措置の遵守が重要である．その際，人々による新型コロナウイルス感染症に対する知識の把握と感染予防対策の実施が大きな影響を与える（Khasawneh, A,et al.,2020）．新型コロナウイルス感染症の流行拡大により，多くの留学生は健康や安全だけでなく，学業や日常生活も大きな影響を受けている[(3)]．そこで，留学生は十分な知識を蓄積し，感染防止対策を実施することにより，新型コロナウイルス感染症に感染しないようにすることが重要である．

本研究では在日中国人留学生を対象とした事例調査を実施したが，調査対象の選定理由としては以下の2点がある．第一に，日本学生支援機構による2019年度の外国人留学生在籍状況調査を見ると，中国人留学生数は124,436人であり，国籍別留学生数で第1位であったことが挙げられる[(4)]．第二には，中国人留学生を対象にした研究によると，中国人留学生は，受け入れ国である日本の大学生だけでなく，英語圏からの留学生と比較しても，精神的健康度が低く，他国の留学生と比べて適応上，多くの問題があることが挙げられる（葛，2007）．新型コロナウイルス感染症は中国湖北省武漢市を中心に発生したため，中国人留学生は新型コロナウイルス感染症と関連があるという偏見や差別により，孤立感が強まっている可能性がある．

2. 新型コロナウイルス感染症における日本政府と大学の対策

新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により，全世界で大規模な学校閉鎖が実施された．3月末から4月上旬のピーク時には，195カ国・地域が全国規模での学校閉鎖を実施し，世界の90％以上の学生が影響を受けた[(5)]．教育機関の閉鎖に関しては，重要な伝播経路を遮断することにより伝染病のコミュニティ内での伝播を減少させるという記述が多くの文献に掲載されている（Kawano S, et al.,2015）．

日本政府や日本国内の大学においても他国と同様に新型コロナウイルス感染症対策に取り組んでいる．2020年5月25日には，日本において「水際対策強化に係る新たな措置」が決定された．日本政府は8月30日に，水際対策強化を強化し，入国拒否の対象地域を159ヶ国に拡大すると発表した[(6)]．また，日本政府は国民に対して4月7日から5月25日の間において外出自粛を強く要請し，3つの密（1．密閉空間，2．密集場所，3．密接場面）を避けるように注意喚起を行った．加えて，新型コロナウイルス感染症緊急対策として一人につき10万円の「特別定額給付金」を支給した[(7)]．

文部科学省は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により，経済的に困難な状況に陥っている家庭から自立した学生等が学業を継続できるよう，「学生支援緊急給付金給付事業」を実施した．また，文部科学省が全国の大学および高等専門学校を対象に対応状況を調査したところ，全体の9割近い大学が新型コロナウイルス感染症対策で授業開始時期を延期していることが明らかとなった．そして，2020年8月時点においても，ほとんどの大学が授業の開始に当たり，遠隔授業を実施（60.1％），または検討中（23.4％）であることが分かった[(8)]．

休校とオンライン授業以外にも，大学ごとにそれぞれ対策が実施されている．大阪大学では，新型コロナウイルス感染症対策本部を設置して基本方針や対策を検討し，「大阪大学活動基準」を策定した．大阪大学活動基準は，感染状況等社会情勢を踏まえつつ，政府及び大阪府の動向に沿って，「大阪大学における感染予防のための標準的対策」に基づく感染防止対策を講じたうえで，それを段階的に緩和しながら大学の平常化を目指している．また，緊急事態宣言の解除後には活動基準を段階的に緩和しながら長期的スパンで平常化を目指している．直接的な経済的支援としては，授業料減免の実施，授業料の納入期限の延長など一連の措置が実施された．スト

レスを感じている学生が少なくないことを踏まえ，学生の心のケア対策として，キャンパスライフ健康支援センターによる相談窓口を特設し，留学生に対する英語での対応も実施している．また，修学の継続が困難な学生を対象に，一人あたり10万円（住民税非課税世帯は20万円）の支給を行い，私費外国人留学生に対しては一人3万円の緊急給付金を支給した．また，2020年7月6日と7日に大阪大学は留学生交流会を開催し，参加した留学生に対して新型コロナウイルス感染症に関する情報提供を行った．この中には，新型コロナウイルス感染症が留学生にもたらす心理的ストレスや，長期間の自粛による鬱，焦慮，恐怖を緩和するための大学における窓口や対策の紹介も含まれていた[9]．

日本政府と大学の対策は日本における新型コロナウイルス感染症の拡大の抑制に寄与した．これは，欧米諸国に比べて日本を含むアジア諸国は感染数や死亡者数が圧倒的に少ないという事実（菅谷, 2020）からも明らかである．また，給付金は留学生の生活におけるプレッシャーをある程度緩和した（浦上, 2020）．大阪大学では，経済的支援のみならず，情報提供やオンライン授業，心のケアなど留学生の健康と安心のために多くの対策が実施された．

しかし，様々な課題も残されている．上記のように，大阪大学では学生の心のケアのため，キャンパスライフ健康支援センターによる相談窓口の特設という対策を実施しており，英語と日本語による対応が行われている．しかし，緊急時は平時とは異なる心理状態であることや，日常では使用しない専門用語もあることから，留学生が母語以外の言語では必要な情報を理解できない可能性もある．したがって，多言語支援をさらに充実させるべきか検討する必要がある．

3. 感染症に関する先行研究

学校での感染症対策への取り組みについては様々な調査研究が行われている．金田（2010）は，開発途上国における感染症対策への取り組みと課題を紹介し，主に学校における健康教育を含む学校保健活動を充実させるため，健康教育を実施するための事前分析モデルの重要性に注目している．また横山（2018）は，学校医としての経験を基に校医が保健所，関連部署，関連教員などと協力体制を築き，危機管理を展開していくことが重要であることを示している．

新型コロナウイルス感染症に対する研究は，現在のところ比較的限られており，多くの研究は医学と心理学の観点から行われている．例えば，Wang, C., et al.（2020）は中国人を対象にして，対象者の新型コロナウイルス感染症流行初期の心理反応及び関連要因に関する分析を行い，医療保健システムと国民が心理的準備を事前に行うことは非常に重要であることを明らかにした．Wang, C. et al.（2020）の研究では，心理理的な関与を優先的に受けるべき対象を早期に見つけ，新型コロナウイルス感染症による心理的不安を抱える人を減らすための対策を提案している．また，Wang, C., et al.（2020）の研究と似た研究に，Zhong, B. et al.（2020）の研究がある．Zhong, B. et al.（2020）は中国の住民に対してサンプリング調査を行い，彼らの属性ごとの新型コロナウイルス感染症に関する知識の習得度を測定した．その結果，社会経済的地位の高い層と女性において新型コロナウイルス感染症に関する知識の蓄積が偏っていることを明らかにしている．この方法は個人属性（性別，職業，出身地など）の異なるグループを対象に分析を行っており，本研究の参考となる分析方法であると考えられる．また，この研究結果は，公衆衛生政策の決定者と衛生実践の従事者が新型コロナウイルス感染予防と健康教育の対象とする人を識別することに役立つと考えられる．

通常，感染症ごとに感染リスクや感染発生状況などが異なるため，一概に対策を述べることはできない．また，新型コロナウイルス感染症は突発的に発生したものであるため，先行研究では，中国人留学生を対象に検討したものはほとんど見当たらない．勝間（2020）も新型コロナウイルス感染症についての研究は外国人学生に特有の課題が捉えられていない点を指摘している．これまでの調査を見ると，中国人留学生の課題への配慮が不十分であり，現状把握も比較的不足していると考えられる．

4. 研究目的と仮説

本研究は，大阪大学における中国人留学生を例にして，彼らの属性ごとに新型コロナウイルス感染症への対応や知識の差異，対応力を高める方法を明らかにすることを目的した．さらに，オンラインアンケート調査のデータ分析を通じて，留学生の新型コロナウイルス感染症に関する知識と感染防止対策を調査するとともに，彼らの対策や知識獲得の影響要因を明らかにし，現在の政策とアンケート結果の分析を通じて，留学生の新型コロナウイルス感染症への対応能力を向上させるための提案

を行うことを目指した.

研究目的に応じて，中国人留学生は属性により新型コロナウイルス感染症に関する知識と感染防止対策に違いがあるという理論仮説を立てた．そして，この理論仮説を検証するために2つの作業仮説を立てた（表1).

表１　本研究の仮説

理論仮説	中国人留学生の属性により新型コロナウイルス感染症に関する知識と新型コロナウイルス感染防止対策に違いがある.
作業仮説ⅰ	留学生の属性により新型コロナウイルス感染症に関する知識の把握に違いがある.
作業仮説ⅱ	留学生の属性により新型コロナウイルス感染防止対策の実施に違いがある.

5. 研究方法

5.1　調査対象・期間

本研究で使用する研究方法は大阪大学における中国人留学生へのオンラインアンケート調査である．これは，新型コロナウイルス感染症感染の拡大により対面調査が困難であることに起因する．オンラインアンケートに使用したツールはGoogle社のアンケート作成サービス「Googleフォーム」であった．Googleフォームを選択した理由としてはURLからQRコード画像を作成して，WeChat [10] に貼り付けて簡単に配布することができるためである．オンラインアンケートを実施する際には，WeChatでアンケートのQRコード画像を送信して，回答者はQRコード画像を読み取ることで回答できるようにした．データを収集する際には，知人の留学生による協力と無作為による選択方法を用いて，大阪大学に在籍する中国人留学生166名から回答を得た.

アンケート結果を分析する際には，データを匿名化した上で統計処理を行った．また，設問の意図を正しく理解せず回答しているデータを排除し，データクリーニングを行った. それにより対象とみなされた数は162名（男子74名，女子88名）であった．なお，調査期間は2020年6月16日から2020年9月25日であった．本調査は6月に実施されたが，データの不足分を補填するために追加調査を9月にも実施した.

なお調査は，大阪大学大学院人間科学研究科共生学系研究倫理審査の承認（2020年6月15日承認番号OUKS2004）を受けて実施した.

5.2　アンケート調査の質問項目

本研究では，中国人留学生の個人属性（性別，居住状況，日本語能力，ニュースを読む頻度など）が新型コロナウイルス感染症に関する知識の習得程度と感染防止対策の充実度に影響すると推測した．そのためアンケートでは，主に中国人留学生の個人属性，知識，対策を捉えるため，表2のような質問項目を設定した.

設問文にはすべて中国語と日本語を併記した．また，選択式のみならず,「新型コロナウイルスに関する不安」,「日本政府や学校の対策において不足している点」,「政府や学校に期待する支援」を記述するための自由記述欄も複数設定した．アンケート調査の質問項目はZhong, B. et al.（2020）とLINEからの「新型コロナ対策のための全国調査」[11] を参考にして作成した．アンケートの1～8は個人属性（性別，年齢，居住状況，日本語能力，ニュースを読む頻度など）についての質問，10・11・12・14・16は新型コロナウイルス感染症に関する知識を尋ねる質問，13・15は新型コロナウイルス感染防止対策を尋ねる質問である．また，調査対象の状況，意見や要望を的確に把握するため,「2020年2月以降，アルバイトを行ったか」,「日本政府や学校の対策には不足している点があるか」,「現在，行政と学校の取り組みについて不足していると思われる点や意見」についての質問も設定した.

6. 中国人留学生の属性による新型コロナウイルス感染防止対策・知識の差

各質問項目について統計処理を行うために，それぞれの回答について得点化を行った（付録1)．知識項目については，上記のように5問ある．1つの問題につき2点で得点付けし，各項目の得点を合計して知識得点とした．知識の総得点は0～10点である．対策項目については, 2つの質問を設けた．1つの正解につき1点を付与し，各項目の得点を合計して対策得点とした．対策の総得点は0～10点である．新型コロナウイルス感染症に関する知識を尋ねる質問の点数は高ければ高いほど，知識が充実していることを意味する．また，新型コロナウイルス感染防止対策を尋ねる質問は点数が高ければ高いほど，対策の充実度が高いことを意味している.

6.1 中国人留学生の属性による新型コロナウイルス感染防止対策と知識の差の検定

アンケート調査のデータを用いて理論仮説を検証するために，SPSS Statistics ver25を利用し，各指標（居住状況や日本語能力等の7つの基本属性）の正規性を

表２　アンケートの質問項目

日本語	中国語
Q1.出身地を教えてください.	您的出身地是哪里.
Q2.性別，年齢を教えてください.	请告诉我您的性别和年龄.
Q3.現在の居住状況について教えてください.	请告诉我您现在的居住状况.
a.一人暮らし　b.家族と同居する　c.寮に居住する　d.其他.	a.一个人住　b.和家人住　c.在宿舍住　d.其他.
Q4.日本語レベルを教えてください.	您的日语水平是什么样的.
a.全くできない　b.簡単な日本語　c.研究レベル　d.ネイティブ程度	a.一点都不会　b.简单的日语　c.能够进行研究水平的日语　d.母语级别的日语
Q5.新型コロナウイルス感染症に関するニュースや科学記事をよく読んでいますか.	您是否经常阅读关于新冠肺炎的新闻和科普文章.
a.はい　b.いいえ	a.是　b.否
Q6.政府と大学から新型コロナウイルス感染症に関する有効な情報を得ましたか.	您是否从政府和大学获得了关于新冠肺炎的有效信息.
a.はい　b.いいえ	a.是　b.否
Q7.日本政府の発表する情報を信じていますか.	对日本政府发表的情报是否信任.
a.はい　b.いいえ	a.是　b.否
Q8.新型コロナウイルスに不安はありますか.	对于新冠肺炎是否有感觉到不安.
a.非常に不安である　b.やや不安である　c.どちらともいえない　d.あまり不安ではない　e.全く不安ではない	a.非常不安　b.有点不安　c.不在意　d.几乎没有不安　e.没有不安
Q9.「Q8」で「非常に不安である」,「やや不安である」と答えた方のみで回答してください．どんなところが不安ですか.	在8题中回答「非常不安」和「有点不安」的人请回答，具体因为什么事情感到不安.
Q10.新型コロナウイルス感染症の拡大状況を知っていますか.	了解新冠肺炎的扩大状况吗.
a.はい　b.いいえ	a.是　b.否
Q11.新型コロナウイルス感染症の症状として当てはまるのを選んでください.（複数回答可）	选出您认为是新冠肺炎的症状.（可多选）
a.無症状　b.咳　c.喉の痛み　d.痰　e.鼻水　f.発熱　g.筋肉痛　h.皮膚のかゆみ　i.倦怠感　j.嗅覚・味覚障害　k.下痢　l.胸部不快感　m.呼吸困難　n.出血	a.无症状　b.咳嗽　c.喉咙痛　d.有痰　e.流鼻涕　f.发热　g.肌肉疼痛　h.皮肤瘙痒　i.身体倦怠　j.出现嗅觉和味觉障碍　k.拉肚子　l.胸部有不适感　m.呼吸困难　n.出血
Q12.新型コロナウイルス感染症の潜伏期間は一般的にはどれぐらいだと考えますか.	新冠肺炎的潜伏期一般是多久.
a.1-14日　b.7-21日　c.14-30日	a.1-14日　b.7-21日　c.14-30日
Q13.新型コロナウイルス感染症の感染予防のためにしていることを選んでください.（複数回答可）	请选择您为了预防新冠肺炎做的事情.（可多选）
a.手洗い　b.うがいや手や指の消毒をする　c.せきやくしゃみを人に向ってしない　d.マスクを着用する　e.混雑している場所にはいかない　f.換気が悪くて窓などがない，閉じられた場所にはいかない　g.他の人と，近い距離での会話や発声をしない　h.生活用品と消毒用品を備蓄する　i.自粛ための食べものを備蓄する　j.特にやっていることはない	a.洗手　b.漱口，洗手，消毒手和手指　c.不向人咳嗽和打喷嚏　d.佩戴口罩　e.不去人多的场所　f.不去通风不好没有窗户，封闭的地方　g.不和其他人近距离说话　h.储备生活用品和消毒用品　i.储备自我约束期间的食物　j.没有做什么
Q14.次のうち感染するリスクが最も高いのはどの場所だと思いますか.	您认为以下三个场所，哪个感染机率最大.
a.公園　b.劇場　c.コンビニ	a.公园　b.剧场　c.便利店
Q15.新型コロナウイルス感染症の症状が現れたら，対応方法を決めていますか.	如果出现了新冠肺炎的症状的话，您决定好对应方法了吗.
a.はい　b.いいえ	a.是　b.否
Q16.新型コロナウイルス感染症の主な感染経路は何だと考えますか.（複数回答可）	您认为新冠肺炎的感染途径有哪些.（可多选）
a.飛沫感染　b.血液感染　c.経口感染　d.体液感染　e.接触感染	a.飞沫感染　b.血液感染　c.经口腔感染　d.体液感染　e.接触感染
Q17.2020年2月以降，アルバイトを行っていますか.	2020年2月以后，您去打工了吗.
a.はい　b.いいえ	a.是　b.否
Q18.新型コロナウィルスに関する情報をどこから得ていますか（複数回答可）.	关于新冠肺炎的情报主要是从哪里得到的（可多选）.
a.日本のニュース番組　b.中国のニュース番組　c.中国のSNS（weibo, wechat等）　d.日本のSNS（twitter, line等）　e.住んでいる地域・市区町村のウェブサイト　f.家族と友達　g.大学	a.日本的新闻节目　b.中国的新闻节目　c.中国的SNS（weibo, wechat等）　d.日本的SNS（twitter, line等）　e.所住区域（市区町村）的网站　f.家人和朋友　g.大学
Q19.日本政府や学校の対策において不足している点があると思いますか.	觉得政府和学校新冠肺炎的措施存在什么不足之处吗？
Q20.政府や学校に期待する支援は何ですか.	对于政府和学校的支援措施，有什么期待？

Shapiro-Wilk検定により確認した．また，属性による回答の差が有意なものであるかを確認するため，有意水準を5％としたT検定と分散分析を行った．

中国人留学生の属性による新型コロナウイルス感染予防対策・知識の違いについては，性別，居住状況等の7つの属性（表3）を検定因子とする．人口統計の特徴とされる要素は主に性別，年齢，職業，出身地などである．先行研究は出身地について，主に武漢と武漢以外の地区に分けているが，本調査では武漢出身のサンプル数が少ないため（3人），出身地については考慮しない．また，本研究の調査対象は主に中国人留学生であるため，職業についても考慮しない．中国人留学生の年齢は主に20代に集中しており，年齢の幅が小さい．以上から，性別という要素を考察の中心としている．その中で，日本語能力という属性は，日本で情報を得るための重要な属性であり，多くの先行研究で留学生の対策に影響を与える要素として考察されている．例えば，防災対策において，加賀美（1997）は，中上級者は日本語ができるから大丈夫だろうという憶測から情報提供の網の目から漏れてしまう可能性があること，さらに日本に馴れ日本語にも自信がついてきた中・上級者は，日本人や母国の友人に依存せず自分から情報にアクセスするため，重要な情報を見逃す可能性があることを指摘している．また，岸良・松行（2016）は日本語能力試験の取得状況を個人属性として，防災対策・知識との関係を考察している．

不安などの心理的属性も感染症分野の対策や知識に影響を与える属性として考察されている（Person.B.et al.,2020；Zhong, B. et al.,2020）．他の属性は留学生の新型コロナウイルス感染防止対策や知識に影響を与える可能性があると考えられる属性である．特に，共に生活している人の存在，ニュースや科学記事をよく読むこと，政府と大学から新型コロナウイルス感染症に関する有効な情報を得ているかが，知識の充実と対策の実行に寄与している可能性がある．

表３　留学生の属性

属性	水準
性別	男（45.7％），女（54.3%）
居住状況	同居人あり（33.3%），同居人なし（66.7%）
ニュースや科学記事を読む頻度	よく読む（85.8%），あまり読んでない（14.2%）
政府と大学から新型コロナウイルス感染症に関する有効な情報の入手状況	入手あり（38.9%），入手なし（61.1%）
日本語能力	できない（3.1%），簡単な日本語（24.7%），研究レベルの日本語（69.8%），ネイティブ程度（2.4%）
日本政府の発表する情報に対する信頼感の有無	あり（32.7%），なし（67.3%）
新型コロナウイルス感染症に対する不安	非常に不安である（35.2%），やや不安である（42.0%），どちらともいえない（3.7%），あまり不安ではない（6.8%），全く不安ではない（12.3%）

最終サンプルは162名の参加者で構成されている．最終サンプルでは，平均年齢23（±.45）歳，女性88人（54.3％），知識の平均得点は約6.53で，対策平均得点は8.07である．まず，中国人留学生の属性による新型コロナウイルス感染症に関する知識の違いについて述べる．知識の得点を変数とし，研究対象の個人属性を引数としてT検定と分散分析を行った．結果は表4の通りである．

次に，中国人留学生の属性による新型コロナウイルス感染防止対策の違いについて述べる．上記と同じように，対策の得点を変数とし，研究対象の個人属性を引数としてT検定と分散分析を行った．結果は表5の通りである．対策の得点について，女性（P=0.007）や，同居人がいる中国人留学生（P=0.033），政府と大学から新型コロナウイルス感染症に関する有効な情報を得ている中国人留学生（P=0.002），日本語能力が高い中国人留学生はより有意に高い得点を示した（P<0.05）．他の属性は，対策の有意確率が全て0.05より大きく，有意差は認められなかった．つまり，本研究では中国人留学生の出身地・日本政府の発表する情報に対する信頼感・日本での安心感と新型コロナウイルス感染防止対策は関係がないことが明らかになった．

以上のように，中国人留学生に対するアンケート調査を通して新型コロナウイルス感染防止対策・知識に影響を与える要因を明らかにするために，新型コロナウイルス感染防止対策・知識に関する質問とともに，留学生の個人属性に関する項目を設け，その回答を統計的に処理して仮説を検証した．その結果，留学生の属性によって感染防止対策・知識に差が見られた．理論仮説の結果を表6に示す．○は正しかったこと，×は正しくなかったことを示している．

以上が仮説の検証結果である．本研究の調査結果から，以下の点が明らかとなった．①女性留学生は男性留学生よりも新型コロナウイルス感染症に関する知識が豊富であり，新型コロナウイルス感染防止対策も充実している．②同居人がいる留学生は同居人がいない留学生よりも，新型コロナウイルス感染症に関する知識が豊富であり，新型コロナウイルス感染防止対策も充実している．③日本語能力が高い留学生は日本語能力が低い留学

表４　留学生の属性と知識の差

属性	N数		知識の平均値	P
性別	男	74	6.270	0.007*
	女	88	6.744	
日本語能力	全くできない	5	6.200	0.239
	簡単な日本語	40	6.475	
	研究レベルの日本語	113	6.513	
	ネイティブ程度	4	7.875	
同居人有無	同居人あり	54	6.852	0.033*
	同居人なし	108	6.366	
ニュースや科学記事を読む頻度	よく読む	139	6.870	0.197
	あまり読んでない	23	6.471	
政府と大学から新型コロナウイルスに関する有効な情報の入手状況	入手あり	63	6.929	0.002*
	入手なし	99	6.273	
日本政府の発表する情報に対する信頼感	あり	53	6.783	0.098
	なし	109	6.404	
新型コロナウイルス感染症に対する不安	非常に不安である	57	5.500	0.985
	やや不安である	68	5.850	
	どちらともいえない	6	6.848	
	あまり不安ではない	11	5.818	
	全く不安ではない	20	6.669	

*p＜0.05，N=162

表５　留学生の属性と感染防止対策の差

属性	N数		対策の平均値	P
性別	男	74	7.608	0.007*
	女	88	8.455	
日本語能力	全くできない	5	5.000	0.001*
	簡単な日本語	40	7.600	
	研究レベルの日本語	113	8.310	
	ネイティブ程度	4	9.750	
同居人有無	同居人あり	54	8.778	0.001*
	同居人なし	108	7.713	
ニュースや科学記事を読む頻度	よく読む	139	8.151	0.196
	あまり読んでない	23	7.565	
政府と大学から新型コロナウイルスに関する有効な情報の入手状況	入手ある	63	8.667	0.002*
	入手なし	99	7.687	
日本政府の発表する情報に対する信頼感	あり	53	7.887	0.425
	なし	109	8.156	
新型コロナウイルス感染症に対する不安	非常に不安である	57	8.860	0.575
	やや不安である	68	8.059	
	どちらともいえない	6	6.000	
	あまり不安ではない	11	7.455	
	全く不安ではない	20	6.800	

*p＜0.05，N=162

表６　理論仮説の結果

検定因子	対策	知識
性別	○	○
居住状況	○	○
ニュースや科学記事を読む頻度	×	×
日本政府と大学から新型コロナウイルス感染症に関する有効な情報の入手状況	○	○
日本語能力	○	×
日本政府の発表する情報に対する信頼感の有無	×	×
新型コロナウイルス感染症に対する不安	×	×

生より，新型コロナウイルス感染防止対策が充実している．④政府と大学から新型コロナウイルス感染症に関する有効な情報を得ている留学生はそれを得ていない留学生よりも，知識と対策が充実している．以上に加え，本研究では留学生のニュースや科学記事を読む頻度，日本政府の発表する情報に対する信頼感，日本での安心感と知識，対策は関係がないことが明らかになった．

この結果から，留学生は時事ニュースに対する関心を高める必要があることが明らかとなった．また，学校や政府も学生に対して新型コロナウイルス感染症に関する情報の伝達を強化すべきであるとともに，一人暮らしの留学生や日本語能力の低い留学生に対して効果的な情報伝達を行うことが重要であることが明らかとなった．

6.2 新型コロナウイルス感染症に対する中国人留学生の対策・知識に影響を与える因子の重要性

次に，新型コロナウイルス感染症に対する留学生の対策に影響を与える因子の重要性について調査した．留学生の対策に影響を与える因子の中で，どのような要因の影響が最も大きいのかを明らかにするため，影響因子を独立変数とし，対策を被説明変数とする重回帰分析を行った．その結果を表7に示す．

標準化係数ベータはこの回帰式における各変数の因子変数の解釈力を表している．つまり，標準化係数が大きいほど，この変数の影響が強いと考えられる．この重回帰分析から，日本語の能力が対策に最も大きな影響を与えることが確認された．次に影響が大きかったのは日本政府と大学からの新型コロナウイルス感染症に関する有効な情報獲得の有無であった．

また，新型コロナウイルス感染症に対する留学生の知識に影響を与える因子の重要性について明らかにするため，影響因子を独立変数とし，知識を被説明変数とする重回帰分析を行った．その結果を表8に示す．

重回帰分析によると，影響が最も大きかったのは日本政府と大学からの新型コロナウイルス感染症に関する有効な情報の有無であった．

以上の分析により，日本政府と大学から新型コロナウイルス感染症に関する有効な情報を得ていたかどうかは留学生の感染防止対策・知識に与える影響が大きいことが明らかとなった．性別や同居人の有無は政策によって変えることができず，日本語の能力も短期間では向上させることができない．しかし，政府と大学は情報伝達を強化することで，留学生に対してより効果的に情報を提供することができる．今後の提案として情報伝達の方法に関する検討を強化すべきである．以下では得られた結果をもとに分析を行い，留学生の対応力向上のための方策を提案する．

7. アンケートの結果と考察

以上の分析から中国人留学生の属性による回答の違いをみると，留学生の知識・対策については性別，居住状

表７　対策の影響因子の回帰分析

モデル	標準誤差	標準化係数 β	t 値	有意確率	共線性の統計量	
					許容度	VIF
居住状況	0.314	0.169	2.282	0.024*	0.942	1.061
性別	0.289	0.145	2.564	0.011*	0.994	1.006
日本語能力	0.262	0.251	3.418	0.001**	0.954	1.048
日本政府と大学から新型コロナウイルス感染症に関する有効な情報の入手状況	0.304	0.185	1.973	0.007**	0.957	1.045

N=162，R^2=0.179，**p<0.01，*p＜0.05
従属変数：対策の総得点
VIF = 1.006～1.061で多重共線性は認められない．

表８　知識の影響因子の回帰分析

モデル	標準誤差	標準化係数 β	t 値	有意確率	共線性の統計量	
					許容度	VIF
居住状況	0.208	0.160	2.111	0.126	0.995	1.005
性別	0.223	0.119	1.539	0.036*	0.963	1.038
日本政府と大学から新型コロナウイルス感染症に関する有効な情報の入手状況	0.217	0.211	2.748	0.007**	0.967	1.034

N=162，R^2=0.080，**p<0.01，*p＜0.05
従属変数：知識の総得点
VIF = 1.005～1.038で多重共線性は認められない．

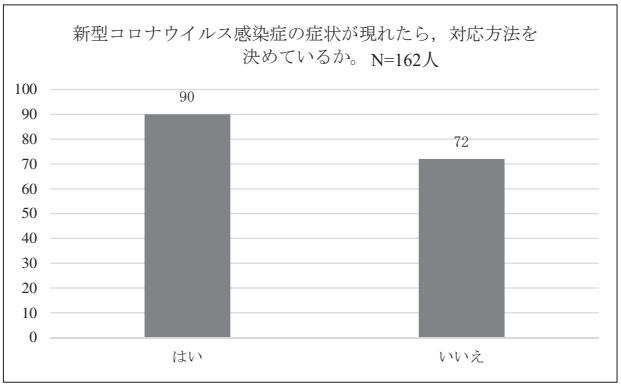

図１　新型コロナウイルス感染症の対応方法

況，政府と大学からの新型コロナウイルス感染症に関する有効な情報の有無が関連していることが読み取れた．つまり，女性，同居人がいる人，政府と大学から新型コロナウイルス感染症に関する有効な情報を得ている留学生は新型コロナウイルス感染防止に関する知識とその対策が充実している傾向にあった．また，日本語能力が高い中国人留学生ほど具体的な対策についてより把握していると言える．アンケートの自由記述では，「様々な状況の人にあった正しい対策案を行う必要がある.」という回答もあった（付録2）．

今後，感染症対策に関する啓発が必要なのは，男性，一人暮らしの層，日本語能力が低い層であると考えられる．そのほか，留学生に対する効果的な情報伝達の強化も重要である．一人暮らしの留学生に対しては，一人一人の感染症対応力の向上が求められるため，自分自身で情報を入手するための方策を強化するべきである．また，政府と学校が情報を優先的に伝えるべき対象は一人暮らしをしている留学生である．留学生の居住状況を調査し，一人暮らしの留学生に対しての情報伝達を強化し，対策の実行を促していく必要があると考えられる．また，留学生も区役所や学校などが発信する情報を確認し，地域住民や身近な友人との連絡を強化すべきである．したがって，日常的に自治会とのコミュニケーションを図っておくことも留学生にとって非常に重要である（公益財団法人京都府国際センター，2013）．これは，自治体とのコミュニケーションを強化することにより，同居人がいなくても援助を受けたり，情報を共有したりすることが可能となるためである．

また，アンケート調査では，「新型コロナウイルス感染症の症状が現れたら，対応方法を決めていますか.」という質問に対し，約44％の中国人留学生が決めていないと答えている（図1）．

しかし，調査によると中国人留学生は新型コロナウイルス感染症対策の実施度が高い．調査したほぼ全ての中国人留学生がマスクを着用していたが，「近い距離での会話や発声をしない」，「窓などがなく換気が悪い，閉じられた場所に行かない」という対策の実施率は比較的低い（図2）．そのため中国人留学生に対しては，「三密」を避けるという対策の周知が特に必要と思われる．

知識に関して注意すべきことは，新型コロナウイルス感染症の症状を尋ねる問題に全て正解した回答者が8名しかいなかったことである．これは，新型コロナウイルス感染症の症状をはっきり認識していないため，正確な判断ができる割合が低いことを示していると考えられる．「次のうち感染するリスクが一番高いのはどの場所だと思いますか」という質問では，40％近くの人が誤った回答をしており，密集する場所において感染の危険性が高いという認知が十分ではない可能性がある．また，感染経路を尋ねたところ，正解者は10名しかおらず，感

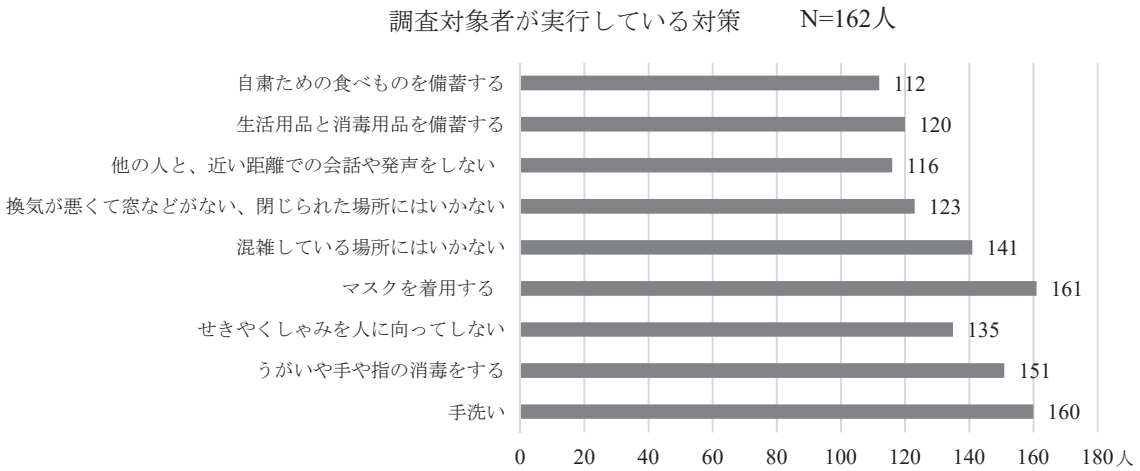

図２　調査対象者が実行している対策

染経路が理解されていないことがわかる．感染経路が不明であれば十分な防疫措置が実施できず，新型コロナウイルス感染症の感染経路に属さない他の感染経路も新型コロナウイルス感染症の感染経路と誤解することで，過度な対応により疫病における問題がさらに大きくなる．

以上に示した本研究の調査結果は，新型コロナウイルス感染症に関する詳細で，わかりやすい知識の紹介が必要であることを示していると言えよう．さらに，留学生の新型コロナウイルス感染症に対する認識を改善・深化させ，疫病に対し科学的かつ客観的な判断を行うことができるような方策が必要である．

次に，政府と大学から新型コロナウイルス感染症に関する有効な情報を得ていたかどうかという質問では，半数近くのが得ていないと回答している．しかし，中国人留学生が自分たちだけで情報を収集することは非常に困難である．現在，政府と学校が留学生に情報を伝えるルートは，主にニュースや，学校からのメール及び公式サイトであるが，このようなルートでの伝達には限界がある．ニュース，メール及び公式サイトの情報は日本語と英語が中心であるため，一部の中国人留学生は情報の意味を理解できない．また現在，留学生と学校，留学生と政府のつながりが希薄化しているため，留学生の生活や彼らが抱える困難な状況が分かりにくくなっている．中国人留学生の苦境を解決するには，政府と留学生，学校と留学生の連絡を強化するとともに，政府と学校の連携を強化しなければならない．新型コロナウイルス感染症の影響がいつまで続くのか不透明な状況の中で，国際教育に従事する関係者で情報を共有し，留学生や現場の教職員の声を大学に届けることが重要だと考えれる．例えば，オンラインによる意見交流会，日本政府による外国人に対する有益な情報の伝達，ラジオやインターネットミーティングなどは有効かつ重要な方策であると言えよう．このような手法を活用して留学生の状況把握に努め，支援を検討する必要がある．

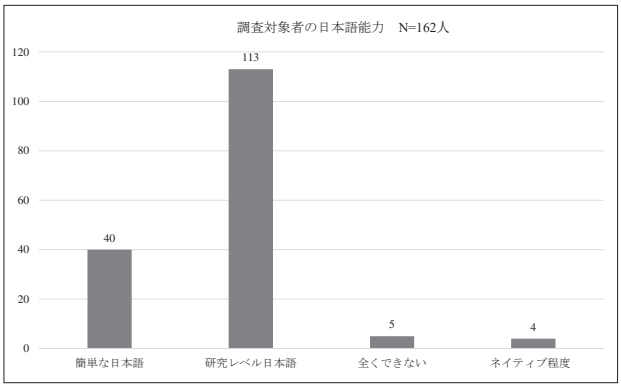

図３　調査対象者の日本語能力

次に，情報の内容の理解に影響を与える要因についても考察を行った．日本語能力についてのアンケート調査では，研究レベルの日本語ができる回答者が最も多かった（図3）．

簡単な日本語ができる留学生と日本語ができない留学生は英語を主な言語として生活をしている．仮説の検証結果では言語能力と対策との直接的な関係が現れている．つまり，留学生は言葉の壁もあり，困っていても「情報過疎」になる傾向にあるということである．新型コロナウイルス感染症の不安についての自由記述では，「発信が少ない．多言語の情報は不足している．速やかに情報を公開してほしい.」,「多言語の情報を充実すべきである.」という声があった（付録2）．現在，自治体からの多言語情報は限定的であり（日本語・英語・中国語・韓国語），その他の言語での対応はないため，母語による情報へのアクセスは限定的である．また，例えば大阪大学では現在，日本語と英語が公用語であり，各種掲示物・窓口対応・学内アナウンスはこの二言語で行われている．日本語と英語の対応が可能であれば，大多数の留学生にとって言語における不安の解決に寄与しうるといえる．しかし，緊急時には平時とは異なる心理的状態であることや，日常で使用しない専門用語などにより言葉の意味が理解できないこともある．したがって，日本語と英語という多言語による情報提供が実施されているとはいえ，緊急時には不充分である可能性が指摘できよう．また，対応の中で，日本語がわかる外国人に対しては，わかりやすい日本語を使用することが重要である．「やさしい日本語」とは，難しい言葉を言い換えるなど，日本語に不慣れな外国人にもわかりやすい日本語のことを言い，阪神・淡路大震災をきっかけに広く普及した．神奈川県等の外国人が多く居住する地方自治体では，すでにこの方法が取り入れられている．また，外国人労働者問題関係省庁連絡会議（2006）は，日本に滞在する『生活者としての外国人問題の対応策』として，「各種のサービスの提供にあたり，地域の外国人の実態を踏まえて，外国語による情報の提供，通訳・翻訳サービスの充実，やさしい日本語の普及等に努める」との施策を示しており，「やさしい日本語」による情報伝達は有効であると言えよう．したがって，新型コロナウイルスに関する情報の伝達においても，「やさしい日本語」を活用した情報発信に努めるべきである．

留学生たちの新型コロナウイルス感染症に関する情報源の調査によると，ほとんどの留学生は中国のSNSに

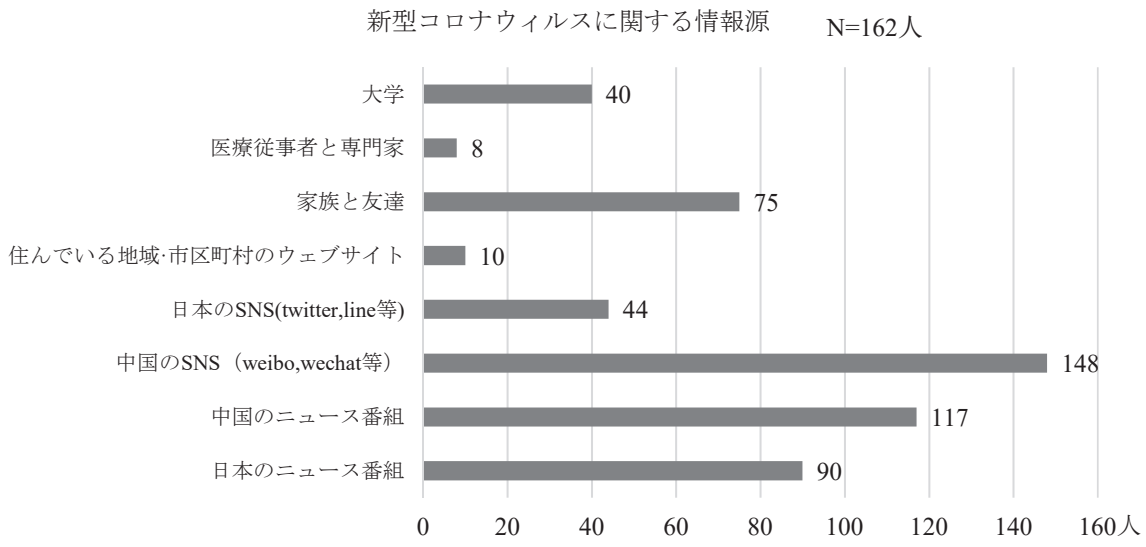

図４　新型コロナウィルスに関する情報源

依存して情報を取得していた．また，日本のニュース番組を見て情報を得る中国人留学生も一定程度は存在することが確認された．

しかし，居住している地域の公式サイトを通じて，新型コロナウイルス感染症の情報を知る中国人留学生は非常に少なかった（6.0％）．医療従事者と専門家から新型コロナウイルス感染症に関する情報を得ている中国人留学生はわずか4％であり，中国人留学生が医療情報を得るのは，科学的なソースではなくソーシャルメディアにより多く依存している．こうした点から政府と大学は，留学生に新しい公衆衛生と緊急医療状況をタイムリーに把握させる必要がある．また，留学生自身も適切な情報源を獲得するように努めることが重要である．このことによって，留学生は医学知識や適切な予防措置をについての知識を得てくべきである．

中国人留学生は積極的にソーシャルメディアを利用して情報を広める傾向にあるが，今回の調査ではSNSを情報源として利用していたのはわずか3％であった．医療や公衆衛生上の突発的な事態が生じた場合，その初期段階において，これらを普及させるべきである．これはトルコ大学が実施した類似の研究（Akan, H. et al,2010）の結果と一致しており，そこではソーシャルメディアはインフルエンザの流行を知るための主要な情報源となっていることを明らかにしている．つまり，政策決定者にとってソーシャルメディアは公衆に情報を伝える上で非常に重要であることを示している．政府と大学は積極的に情報を拡散させ，留学生の情報プラットフォームを知り，留学生が頻繁に情報を得ているプラットフォームで情報を発信するべきである．例えば，多くの中国人留学生は中国のSNSを通じて情報を得る傾向があり，政府や学校は公式サイトで情報を発信し，メールを送る以外に，留学生団体やSNSを通じて情報を発信することを考えるべきである．現在，中国人留学生団体の中で，学友会が活躍している状況がある．学友会はWeChatのグループを設立し，情報伝達と健康バッグの配布過程において非常に重要な役割を果たした．これらの活用により中国人留学生は新型コロナウイルス感染症に関する情報，知識及び対策を共有できる．また，流行病が発生した場合，地域公式サービスは信頼できる情報源を反映するべきであるが，ソーシャルメディアやニュースチャネルほど，情報を得るうえであまり利用されていない．自由記述でも「留学生への周知徹底，毎日の詳細発信，繰り返しの発信が欲しい.」という声があった（付録2）．したがって，信頼できる情報源を確保することが必要である．

8. 留学生の知識・新型コロナウイルス感染防止対策を充実させる提案

本研究の文献調査よって，日本の留学生対策は留学生の苦境を大幅に改善していることがわかったが，不足している点もあることが明らかとなった．

調査結果全体では，中国人留学生は新型コロナウイルス感染防止対策の実施度が高い．女性留学生は男性留学生に比べて，知識と感染防止対策が充実していた．また，同居人がいる留学生は同居人がいない留学生よりも，新型コロナウイルス感染症に関する知識が豊富であり，充実した感染防止対策を取っていた．加えて，政府と大学

から新型コロナウイルス感染症に関する有効な情報を得た人はそれを得なかった人より，知識と感染防止対策が充実していた．

さらに研究を通して，改善すべき問題を発見し，これらの問題について提案した．中国人留学生の新型コロナウイルス感染防止対策・知識についての質問に対する回答をみると，他人との密接な接触を避けること・新型コロナウイルス感染症の症状・感染するリスクが高い場所・感染経路などの知識が不足していることが明らかとなった．同時に，半数近くが学校や政府から情報を得ていないことも明らかとなった．

次に，これらの問題に対して以下のような提案を行った．

8.1　特定の人口層に対する実施措置の充実

まず適切な対応を周知することが必要である．他人との密接な接触を避けること・新型コロナウイルス感染症の症状・密集場所・感染経路などの知識を優先的に伝えるべき対象として，留学生の中でも特に男性，一人暮らしの者と日本語能力が低い者が挙げられる．健康教育は，特定の人口層に対してより効果的であり，例えば，健康教育計画が男性や独居者向けに設計されていれば，新型コロナウイルス感染症に関する知識や感染防止対策の充実度が大幅に増加する可能性がある．

8.2　留学生に対する情報提供の充実

政府と学校が留学生に情報を伝えるルートに関して，留学生教育学会・大阪大学近藤佐知彦教授は2020年4月末に新型コロナ流行と留学事業について緊急アンケート調査を行った．調査結果では，英語での定期的かつ最新の情報提供を求める声が多くあった．特に，ローカル情報は英語で情報提供されていない傾向にあり，地方で学ぶ留学生に情報が行き届いていない事が窺われる．「英語や母国語での日本の，住んでいる地域の情報が欲しい」という声や「外国人専用の相談を設けて欲しい」という声があった[12]．留学生による情報入手の効果を考えると，多言語対応の強化と「やさしい日本語」の普及が必要である．また，ニュースや学校のメールによる周知及び公式サイトに限られるべきではなく，政府と学校の情報共有の強化などが効果的であると考えられる．政府と大学は留学生の情報プラットフォームを知り，留学生が頻繁に情報を得ているプラットフォームで情報を発信する必要がある．また，留学生団体やSNSを通じて情報を発信することも考慮に入れるべきである．

8.3　感染症のリスクを含めた留学生教育と対策の充実

最後に，日本の防災教育・訓練は世界トップクラスであるが，それは自然災害を想定したものが多く，感染症などへの対策についての関心は限定的である．政府や学校による感染症に対する重要性の認識不足が今回の新型コロナウイルス感染症の事例から明らかになった．これらの点から，今後数年間の留学生教育の課題と可能性について検討するべきであり，特に地震などの自然災害のみならず，伝染病のリスクも含めて検討する必要があると言えよう．感染症の大流行を視野に入れた教育や訓練に対する十分な準備が不足していることから，地震などの自然災害だけでなく，これらの伝染病のリスクも含めた教育と手段と対策を充実させるが必要である．また，危機管理のあり方として情報の蓄積も行うべきであると考えられる．

9. おわりに

日本政府や大学は，新型コロナウイルス感染防止対策に取り組んでいるが，不足している点もいろいろ見られた．留学生の心的なケアや多言語による情報は未だ不足していることがわかった．本研究は日本在住の中国人留学生を対象に，その属性別の新型コロナウイルス感染防止対策・知識の違いについて検討を行った．中国人留学生の属性・対策・知識についてアンケート調査を行い，その答えを統計的に処理して検証を行った結果，中国人留学生はそれぞれ属性によって対策・知識に差が見られることが明らかとなった．

調査結果から，優先的な実施措置が必要な対象を見つけることができ，多言語の充実，情報共有を強化するとともに，政府と大学が留学生の健康教育を強化する必要性があることが明らかになった．

しかし，今回の調査にはいくつかの限界があった．まず，現在の状況から，本研究では利便性に基づきサンプリングによる調査を行ったため，留学生全体を代表するものとなっていない．そのため，調査結果の普遍性には限界がある．新型コロナウイルス感染症の発生状況の突発性と未知性によって，社会調査表の作成においても精度が不充分である可能性があった．また，対象を中国人の学生に限定しているほか，回答者の基本属性に偏りがみられたこともあり，留学生の実態を十分に把握できたとは言えない．加えて，感染者が急増した2月以降においても，多くの留学生がアルバイトをしていることがわかる．これらの留学生の多くが新型コロナウイルス感

染症に対して強い危機感を持っているにも関わらず，アルバイトをする原因は経済的に困窮し生活が維持できないためであると推測される．留学生は貴重な労働力として地域社会を支えている．経済的困窮から救うだけでなく，多文化共生を進める施策としても制度改善の必要がある．

また，アンケートの自由記述の回答では，留学生への影響については，金銭的な影響，健康・精神面での影響，学習面での影響などさまざまな影響があることがわかる．日本には頼れる人がいないため，万が一新型コロナウィルスに感染したら，どう対応したら良いのか不安を訴えている留学生が多くいる．また，将来における経済面での問題もある．調査対象の留学生は多重ストレスのもとで生活している（付録2）．この点については次のインタビューで調査する必要があると考えられる．インタビュー調査を通じて新型コロナウイルス感染症が留学生に与える影響を研究し，調査結果に基づいて留学生対策と知識を高める有効な方法を検討する必要があると言えよう．

受付2020.10.5／受理2021.1.12

謝辞

アンケート調査にご協力頂いた皆様に深く感謝申し上げます．

注釈

(1) 日本学生支援機構（JASSO）外国人留学生在籍状況調査結果（2019）（https://www.jasso.go.jp/about/statistics/intl_student_e/2019/index.html）（最終アクセス日：2020/6/6）.

(2) NHK 特設サイト　新型コロナウイルス（https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/）（最終アクセス日：2020/10/4）

(3) 男女共同参画学協会連絡会（2020）「緊急事態宣言による在宅勤務中の科学者・技術者の実態調査結果報告」）を参照.（https://www.djrenrakukai.org/doc_pdf/2020/survey_covid-19/index.html）（最終アクセス日2020/8/28）

(4) 日本学生支援機構（JASSO）外国人留学生在籍状況調査結果（2019/10/27）（https://www.jasso.go.jp/about/statistics/intl_student_e/2019/index.html）（最終アクセス日：2020/6/6）.

(5) UNESCO（2020）covid_impact_education.（https://en.unesco.org/sites/default/files/covid_impact_education.csv）（最終アクセス日：2020/11/4）

(6) 厚生労働省（2020）「新型コロナウイルス感染症における検疫所での対応について　2020年8月30日更新」を参照.（https://www.forth.go.jp/news/20200830_00001.html）（最終アクセス日：2020/9/14）

(7) 厚生労働省（2020）「新型コロナウイルス感染症ににについて」を参照.（https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html）（最終アクセス日：2020/9/14）

(8) 文部科学省「新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する対応について　大学・大学院・高専に関する情報」を参照.（https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/mext_00021.html）（最終アクセス日：2020/8/14）

(9) 大阪大学「コロナ新時代における大阪大学の取組」を参照.（https://www.osaka-u.ac.jp/ja/news/info/corona/newera）（最終アクセス日：2020/11/4）

(10) WeChat（微信：読み方weixin，ウィーチャット）は，Tencent（騰訊）が2011年にリリースした，文字や音声，写真や動画，グループチャットなどでコミュニケーション通知など基本機能が出来る無料メッセージアプリで，中国最大人気SNSの1つである．
WeChat公式サイト：http://www.WeChat.com/ja/download.html

(11)「新型コロナウイルス対策のための全国調査」を参照.（http://research-platform.line.me/archives/35785304.html?utm_source=lg&utm_medium=link&utm_campaign=covid19_survey）（最終アクセス日：2020/10/27）

(12) 近藤佐知彦「留学生教育学会緊急調査（外国人留学生対象）速報」留学生教育学会（JAISE）ホームページを参照.（https://jaise.org/data/20200507-JAISE-UrgentSurveyForForeignStudents-r1.pdf）（最終アクセス日：2020/9/14）

参考文献

[1] Akan,H., Gurol, Y., Izbirak, G. et al. (2010). Knowledge and attitudes of university students toward pandemic influenza: a cross-sectional study from Turkey. *BMC Public Health* 10, 413. doi:10.1186/1471-2458-10-413

[2] Gewin, V. (2020). Five tips for moving teaching online as COVID-19 takes hold. *Nature* 580, 295-296. doi:10.1038/d41586-020-00896-7

[3] Kawano S., Kakehashi M. (2015). Substantial Impact of School Closure on the Transmission Dynamics during the Pandemic Flu H1N1-2009 in Oita, Japan. ,*PLoS ONE*: 10(12), art. no. e0144839. doi:10.1371/journal.pone.0144839

[4] Khasawneh, Ashraf I et al. (2020). Medical Students and COVID-19: Knowledge, Attitudes, and Precautionary Measures. A Descriptive Study From Jordan. *Frontiers in public health*,8,253. doi:10.3389/fpubh.2020.00253

[5] Luca,G.D., Kerckhove, K.V., Coletti, P. et al. (2018). The impact of regular school closure on seasonal influenza epidemics: a data-driven spatial transmission model for Belgium. *BMC Infect Dis* 18, 29. doi:10.1186/s12879-017-

2934-3

[6] Person, Bobbie et al. (2004). Fear and stigma: the epidemic within the SARS outbreak.*Emerging infectious diseases* vol. 10,2: 358-63. doi:10.3201/eid1002.030750

[7] Wang,C.,Pan, R.,Wan, X.,Tan, Y.,Xu, L.,Ho, C.S., Ho, R.C. Immediate Psychological Responses and Associated Factors during the Initial Stage of the 2019 Coronavirus Disease (COVID-19) Epidemic among the General Population in China. Int. J. Environ. Res. *Public Health* 2020, 17, 1729. doi:10.3390/ijerph17051729

[8] Wheeler,C. C., Erhart, L. M., & Jehn, M. L. (2010). Effect of school closure on the incidence of influenza among school-age children in Arizona. *Public health reports* (Washington, D.C. : 1974), 125(6), 851-859. doi:10.1177/003335491012500612

[9] Zhong,B., Luo, W., Li, H., Zhang, Q., Liu, X., Li, W.,& Li, Y. (2020). Knowledge, attitudes, and practices towards COVID-19 among Chinese residents during the rapid rise period of the COVID-19 outbreak: a quick online cross-sectional survey. Int J *Biol Sci,* 16(10), 1745-1752. doi:10.7150/ijbs.45221

[10] 岸良朋子・松行美帆子（2016）「日本人大学生と留学生の災害知識・対策の違いに関する研究『横浜国立大学地域実践教育研究センター地域課題実習・地域研究報2016年度』, 204-210.

[11] 葛文綺（2007）『中国人留学生・研修生の異文化適応』溪水社.

[12] 公益財団法人京都府国際センター（2013）「京都府外国人住民に向けた防災についてのアンケート 調査報告書」（https://www.kpic.or.jp/content/files/saigai/bousaichousa.pdf）（最終アクセス日：2020/6/13）.

[13] 横山裕一（2018）「グローバル時代と大学の海外感染症危機管理―学校医が経験した2014年エボラウイルス病アウトブレーク－」-ウェブマガジン『留学交流』83, 26-33.

[14] 厚生労働省（2020）新型コロナウイルス感染症について（https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html）（最終アクセス日：2020/6/13）

[15] 加賀美常美代（1997）「阪神大震災被災外国人学生の日本語能力からみた情報収集と救援・支援活動に対する評価」『日本語と日本語教育』25, 149-162.

[16] 菅谷憲夫（2020）「日本の新型コロナ対策は成功したと言えるのか―日本の死亡者数はアジアで2番目に多い」『日本医事新報』5014, 30.

[17] 金田英子（2010）「国際学校保健--開発途上国における感染症対策への取り組みと課題」『東洋法学』54（2）, 230-218.

[18] 浦上早苗（2020）コロナでバイト消え貯金尽きた留学生，給付金で救われ「日本に感謝」（https://www.businessinsider.jp/post-213561）（最終アクセス日：2020/11/10）.

[19] 人民網日本語版（2020）「海外の中国大使館が中国人留学生に「健康セット」配布SNSに感動の声（http://j.people.com.cn/n3/2020/0331/c94475-9674484.html）（最終アクセス日：2020/9/13）

[20] 勝間靖（2020）「COVID-19の大学生への影響：日本における外国人学生を中心に」『国際保健医療』35（2）, 89-91.

[21] 外国人労働者問題関係省庁連絡会議（2006）「生活者としての外国人」に関する総合的対応（https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/gaikokujin/honbun2.p）（最終アクセス日：2020/10/13）

[22] 文部科学省（2020）新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する対応について（2020）（https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/mext _00021.html）（最終アクセス日：2020/10/13）.

付録 1 アンケート点数表

知識を尋ねる質問	点数
Q10.新型コロナウイルス感染症の拡大状況を知っていますか。	
a.知っている	2
b.知っていない	0
Q11.新型コロナウイルス感染症の症状として当てはまるのを選んでください。(複数回答可)	
a.無症状	○
b.咳	○
c.喉の痛み	○
d.痰	○
e.鼻水	○
f.発熱	○
g.筋肉痛	○
h.皮膚のかゆみ	○
i.倦怠感	○
j.嗅覚・味覚障害	○
k.下痢	○
l.胸部不快感	○
m.呼吸困難	○
n.出血	
○は正解を表す。 0：0 点 1-4：0.5 点 5-8：1 点 9-11：1.5 点　12：2 点	
Q12.新型コロナウイルスの潜伏期間は一般的にはどれぐらいだと考えますか。	
a.1-14 日	2
b.7-21 日	0
c.14-30 日	0
Q14.次のうち感染するリスクが最も高いのはどの場所だと思いますか。	
a.公園	0
b.劇場	0
c.コンビニ	2
Q16.新型コロナウイルスの主要な感染経路は何だと考えますか。	
a.飛沫感染	○
b.血液感染	
c.経口感染	○
d.体液感染	
e.接触感染	○
○は正解を表す。 完全正解：2 点 正答が 2 つまた 1 つ：1 点 正答が 0：0 点	

注：知識項目については，上記のように5問ある。1つの問題につき2点で得点付けした。Q11，Q12，Q15の正解はつき2点を付与し，間違いの答えは0点とした。Q12，Q17の全部正解はつき2点を付与し，1つ以上の正解は0.5点〜1.5点を付与し，全部の選択肢があっていないと0点である。各項目の得点を合計して知識得点とした。

対策を尋ねる質問	点数
Q13.新型コロナウイルス感染予防のためにしていることを選んでください。(複数回答可)	
a.手洗い	1
b.うがいや手や指の消毒をする	1
c.せきやくしゃみを人に向ってしない	1
d.マスクを着用する	1
e.混雑している場所にはいかない	1
f.換気が悪くて窓などがない，閉じられた場所にはいかない	1
g.他の人と，近い距離での会話や発声をしない	1
h.生活用品と消毒用品を備蓄する	1
i.自粛ための食べものを備蓄する	1
j.特にやっていることはない	0
Q15.新型コロナウイルスの症状が現れたら，対応方法を決めていますか。	
a.はい	1
b.いいえ	0

注： 対策項目については，上記の2つの質問を設けた。1つの正解につき1点を付与し，各項目の得点を合計して対策得点とした。対策の総得点は0〜10点である。

付録 2 自由記述

記述内容			回答数
不安のこと	多言語の不足	多言語の発信が少ないこと。	39
		多言語の情報は不足していること。	
	就職	就職がこれから，厳しくなってしまうのかといったこと。	19
		無事に就職することができるかどうかわからないこと。	
		コロナ下では，先輩方の就職活動の仕方が参考になりにくいこと。	
	経済	アルバイトができないため，生活費などが厳しいこと。	38
		経済が止まり，学費が払えなくなったり研究費が払えなくなること。	
	勉強	卒業研究が進まないことが不安であること。	18
	コロナウイルスの感染がいつ終息するかが分からないこと。		62
	自分が感染しているかどうかという心配であること。		41
	長期にわたり帰国できなくて家族に会えないこと。		16
	家族に感染させてしまうのではないかという不安があること。		5
	ワクチンが出来ていないこと。		10
	基礎疾患があるので，重症になるケースがあった。感染した場合の重症化に不安がある。		4
	後遺症が残ること。		3

記述内容		回答数
日本政府や学校の対策には不足している点	経済面での支援が足りていない。(いまはオンライン授業での対応であるが，通常時と変わらない学費がかかる。通えないのに施設費を払わなければいけない。)	68
	多言語の情報が不足している。	56
	徹底した感染防止対策を実施していない。（密集地での対策が不足している。追跡できるアプリがあるが，普及していない。一人一人のスケジュールを追跡できず，一人一人の防疫対策が分からないので，感染のリスクは大きい。）	33
	速やかに情報を公開することと発信が少ない。留学生への周知徹底，毎日の詳細発信，繰り返しの発信が少ない。	30
	留学生に対する生活の関心と心のケアは行われていない。	22
	本当の防疫意識は教育を受けただけでは，浸透していかない。	19
	新入生に対するフォローが少し不足している。	18
	PCR 検査の拡充がなかなか進まない。	18
	オンライン授業の質についてはまだまだ不足している。学校に対して，オンライン授業の環境整備や学生への配慮が足りない。	16
	就職情報についての支援が不足している。	7
	特になし	8

記述内容		回答数
政府や学校に期待する支援	金銭面について，期待している。（給付金の配布，学費の補助と返還，奨学金の拡張など）	68
	多言語情報の充実について，期待している。	56
	強力な防疫措置を行っているようである。（徹底的な外出自粛などの要請が欲しい。緊急事態宣言の再発令を期待している。車や公共施設などではマスクをしなければならな	49

	いなどの強制措置をとるべきである。また，患者を強制隔離し，行方を追跡調査すべきである。）	
	留学生への周知徹底，毎日の詳細発信，繰り返しの発信が欲しい。（政府の外国人に対する有益情報を流す，インターネットミーティングなどを希望する。）	30
	留学生に対する心理的な指導を行って欲しい。精神衛生保健の改善が必要である。	18
	もっと PCR 検査うけてもらうべきである。	18
	オンライン授業における質の担保を期待している。	16
	様々な状況の人にあった正しい対策案を行う必要がある。	10
	先にワクチンなどの開発を最優先してもらいたい。	10
	卒業予定の学生に対するキャリア支援を期待している。	9
	もっと注意喚起を行うべきである。	6
	留学生の日本留学に際しての課題を共有するべきである。	3
	ネットによる交流活動を行いたい。（相談する場をオンラインで設けることで改善できると思われる。）	2
	特になし	12

注：被調査者の回答によって，そのポイントを整理した内容になっている。ある人の回答が 1 ポイント以上のため，総回答数が被調査総人数を超えている。